

平成28年度 長野県森林づくり県民税活用事業の体系

(単位:千円、%)

使途	事業名	事業内容	平成28年度		平成27年度当初		前年度比
			計	国 税	計	国 税	
1	※ハード みんなで支える 里山整備事業(間伐経費分)	小規模・分散的な手入れの遅れた集落周辺の里山の森林を中心に、間伐を面的に推進 [間伐面積目標:2,500ha]	計 675,480	国 311,730	計 842,840	国 409,110	80.1
			税 363,750	税 433,730	83.9		
	地域で進める 里山集約化事業	地域が主体となった里山整備計画の樹立、森林整備や間伐材搬出に係る森林所有者の同意を得る活動等を支援 [集約化目標面積:450ha]	7,200		32,000		22.5
	ソフト 森林づくり推進支援金【市町村事業】	市町村が行う長野県森林づくり指針に掲げる施策の趣旨に即したきめ細かな森林づくりの取組を支援	130,000		130,000		100.0
	水源林公有林化支援事業	市町村等が森林内の水源及び水源林の公的管理を図る上で、土地等の取得が必要となった場合の取得経費等を支援	(579)		(10,800)		5.4
	求められる機能に応じた 里山等の森林づくりの推進	小計	計 812,680	国 311,730	計 1,004,840	国 409,110	80.9
			税 500,950	税 595,730	84.1		
2	ハード みんなで支える 里山整備事業(搬出経費分)	本事業による間伐材が県内で加工・消費が可能な場合、山土場までの搬出集積を支援 [搬出材積目標:4,200m ³]	14,700		14,000		105.0
	ソフト 信州の木活用 モデル地域支援事業	里山の森林資源を供給から消費まで地域が一体となって様々な用途に利活用する先進的な取組を支援 [モデル地域への支援:5地域]	12,500		20,000		62.5
	信州フォレストコンダクター 活動支援事業	「信州フォレストコンダクター」が、各地域の林業・木材産業を、経営感覚を持ちながら総合的な視野で指揮していくために、県と連携して行う活動基盤づくりの取組を支援	1,158		4,581		25.3
	間伐材の利活用等による 継続的な森林づくりの推進	小計	28,358		38,581		73.5
3	ソフト みんなで支える 森林づくり推進事業	第三者機関による森林税活用事業の成果の検証、各種広報媒体を活用した森林税の広報・普及啓発活動を実施	9,017		9,251		97.5
		森林(もり)の里親促進事業	荒廃した里山や山村集落へ県が仲立ちとなり、企業等の社会貢献活動を誘発し、森林整備と交流を通じた新しい森林づくりと地域活性化を促進	1,240		1,240	
	地球温暖化防止 吸収源対策推進事業	森林の里親促進事業により環境先進企業等が整備した森林のCO2吸収量を、委員会が審査して認証	434		433		100.2
	地球温暖化防止 木材利用普及啓発事業	県産材住宅の施主や事務所・店舗を木質化した企業等に対し、県産材利用によるCO2固定量を、委員会が審査して認証	552		503		109.7
	木育推進事業	県産材等を利用して県民が参加しながら木や森林について学習する「木育」活動を推進	10,236		9,860		103.8
	里山活用推進リーダー育成事業	林業技術等を有する林業研究グループ等が地域に働きかけ、技術指導や安全教育等を実施する中で、里山資源の利活用の推進と継続的に里山資源を活用した活動ができる地域づくりの取組を支援	3,000		3,000		100.0
	里山と人との絆づくりを 進める取組の支援	小計	24,479		24,287		100.8
合 計			計 865,517	国 311,730	計 1,067,708	国 409,110	81.1
			税 553,787	税 658,598	84.1		

※ ハードは里山整備(間伐)に直接関わる事業、ソフトはそれ以外の事業で区分

森林づくり 県民税基金 繰入額	個人県民税	534,735	536,596	99.7
	法人県民税	124,835	124,517	100.3
	利子・寄付金	79	278	28.4
	税収等小計	659,649	661,391	99.7
	前年度からの基金残高	109,929	107,136	102.6
	合計	769,578	768,527	100.1
当年度末の基金残高		215,791	109,929	196.3

駒ヶ根市における森林づくり推進支援金の不適正受給について

平成 28 年 10 月 26 日
上伊那地方事務所林務課

駒ヶ根市において、平成 27 年度森林づくり推進支援金事業（森林税活用事業）について、事業を実施していなかったにも関わらず実施したと報告をし、不適正に支援金の交付を受けるといふ事案が発生しました。

その経過等は、次のとおりです。

1 事案の経過等

- ・ 7 月 12 日：駒ヶ根市より地方事務所林務課に当該事案について連絡があり、翌 13 日に林務課職員が駒ヶ根市役所において事業が未実施であることを確認。その後、駒ヶ根市において詳細に事実確認。
- ・ 7 月 20 日：駒ヶ根市より支援金を不正に受領した旨の報告を文書で受け、翌 21 日付けで補助金等交付規則に基づき交付決定の取消及び交付した支援金全額の返還を命令。
- ・ 7 月 21 日：駒ヶ根市において記者会見し、不適正事務により受領した旨を発表。
- ・ 7 月 29 日：支援金の返還を受ける。
- ・ 8 月 10 日：加算金の納付を受ける。

2 不適正事務の内容

地方事務所に提出された実績報告について、駒ヶ根市の当時の担当者が契約・支出関係の書類（写）等を平成 26 年度事業の関係書類の日付等を改ざんし、決裁等の手続きを経ずに作成・提出されていた。

3 事案に係る未実施の事業

事業名	事業内容	事業費 (千円)	支援金額 (千円)
民有林境界確定事業	市有林と個人有林との境界の確定及び測量を実施し、森林整備の推進に寄与	1,458	1,458
林道補修事業	林道の補修を行い、森林整備の推進に寄与（5 路線、6 箇所）	1,495	331
計		2,953	1,789



伐採



間伐作業中の林



間伐材を林業機械で搬出

森林税で広がる 間伐材利用の環

10月は
ふるさとの森林づくり推進強調月間

10月はふるさとの森林づくり推進強調月間。2008年度から県民税に一人当たり年間500円を上限で徴収している森林づくり県民税(森林税)を活用し、主に里山の間伐材が行われ、上伊那地域では15年までの8年間で3332立方メートルを実施。森林税は運び出した間伐材を専らに生かす取り組みへの支援(信州の本活用モデル地域支援事業)も行っています。

問い合わせは、上伊那地方事務所林務課(☎0266-76-6003)

10月末から販売予定 棺桶組み立てキット

昨年、間伐材で棺桶を試作した唐木木工所の唐木真澄さん。伊那地域材活用研究会のメンバーで建具一級技能士。箱型を試作しました。保管に気を配るとの

棺桶を受け、カラマツを中心とした組み立てキットの商品化を模索。中国製が大半を占める国内業界の流通に乗せるため、着場と燃焼実験も行い、10月末から販売する

予定です。50〜60年生のカラマツ積層材を使って、墓制作するのに2日。重さは約20キロで、中国製に比べるとやや重く、価格も若干高めになりそうですが、同じ時代に地元で育った樹の香りに包まれて迎える最期を誰か人もい。さらに防腐を施す



販売開始に向けて、伊那市農林部の職員と展示場所などを検討する唐木真澄さん(中央)

地元の木と一緒に天国へ

伊那市は身近な里山の木に親しんでもらおうと木育の一環で、新生児に木のおもちゃをプレゼントする「カラマツター」とを推して、「間伐材の棺桶で豊かな森に囲まれた伊那らしい終活スタイルを提案してまいります」と話しています。

☎78-4111(同市林務係)

組み立て多用途ブロック 「キーズ」伊那のアカマツで



毎月最終日曜日の朝8時から通り町セントラルパークでキーズ遊ぼう会を開催

伊那まちの再生やるじやん会が企画したキーズ。ワゴンやボックスなど3年目に入り姉妹品が続々

公園のくまなどを作り、商店街を木のシャトル台。15年度は20個とセ



伊那まちの再生やるじやん会が企画したキーズ。ワゴンやボックスなど3年目に入り姉妹品が続々

ト(2万2000円)で販売開始。キーズが生まれ、森で伐採の見学も。デザイン性も

高い評価され、ワゴンやボックスを営むキーズのロシエラ代表の半瀬裕子さんは「商品を通じて里山の豊かな次世代に伝えていきたい」と話しています。

☎96-0438(ワゴン)

里山を活用した 地域づくり各地で

品開発の厚みも森林税は地元住民らが近くの里山から軽トラなどで運び出した間伐材を、木炭や薪に加工して活用する活動も支援。里山を活用した地域づくりの環から上伊那各地で広がっています。



棺桶を組み立てる様子